

『完へき主義は、自他ともに疲れるよね

やめなよ！ 不完へき主義でいじつよ

不完壁でもいいの、その中で良く出来た点をみつけて、誉めて上げなよ。

自分に対しても誉めてあげるんだよ。

当然、他人にたいしても、誉めて上げなよ。

反省させちやダメ

反省させるよりも、誉めたほうがいいよ。

人間のやることには限界があつて、最高で七十八%であり、百分になることは無い。人間は完璧ではありません、だからといっていいかげんにやっつていいということではありません。やるからには完璧をめざすのはあたりまえのことです。完璧をめざすんだけど、最高にできても二十%は残るわけです。次にやるときはこの二十%を完璧にしようと、「改良」しなければなりません。それでも完璧にはできませんので、さらに残った二十%に「改良」を加えて

いくわけです。しかし決して少しづつ完璧に近づいていくわけです。この改良しながら完璧に近づいていくとする態度こそ、そのプロの姿勢なのです

「完。べき主義者というのは、完。べきに物事ができる人のことではなく、何かをやった後、完。べきに出来なかったことで、自分を責めるか、他人を責める人のことで、完。べきでないことに我慢のならない人のこと」

完。べき主義は自他共に疲れる。不完。べき主義でいく。

不完。べき主義とは、いいかげんにやることじゃあないよ。全力投球するんだよ。不完壁でもいいの、その中で良く出来た点を見つけ、誉めて上げよう。

自分に対しても誉めてあげるんだよ。

当然、他人にたいしても、誉めて上げよう「反省させちゃダメ。反省させるより誉めたほうがいいよ